

会 議 要 旨

(1/6)

会議の名称	第5回 川越市教育振興基本計画審議会
開催日時	令和8年1月19日(月) 午前9時30分 開会 ・ 午前10時20分 閉会
開催場所	市役所東庁舎2階 教育委員会室
議長(会長)氏名	会長 山崎 真之
出席者(委員)氏名(人数)	副会長 西村平雪 栗原健一、堀満、櫻村雅章、嘉手川満、岡島一恵、飯田敦、高田豊、福田和子 (10人:会長含む)
欠席者(委員)氏名(人数)	藤崎育子、岡野一明(2人)
事務局職員職氏名	教育長 新保正俊 <教育総務部> 部長 佐藤 喜幸 <学校教育部> 部長 西貝 俊哉 <事務局> 副部長兼教育総務課長 佐藤 裕子 教育総務課 副課長 飯田、副主幹 竹間、大島、北原、吉田
会議次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 議事 (1) 答申(案)について (2) その他 4. 答申 5. 閉会
配布資料	<事前配布資料> ・ 第5回川越市教育振興基本計画審議会 次第 ・ 【資料No.1】 答申(案) ・ 【資料No.2】 審議会意見 ・ 【資料No.3】 計画原案 ・ 【資料】 意見募集の結果について

議 事 の 経 過

【会議内容】

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事

(1) 答申（案）について

(会長)

それでは議事に入る。議題(1)、答申案について事務局より説明願いたい。

<事務局より資料をもとに説明>

(会長)

それでは、ただ今説明があった答申案について、委員の皆様からご意見、ご質問等を願いたい。

(会長)

本日ご欠席の藤崎委員からご意見が寄せられているので、紹介したい。答申、計画書、いずれに対してかは定かではないが、不登校対応という用語を明記されることを希望するというご意見があった。このことについて、事務局から回答願いたい。

(事務局)

答申案の2項目目の4行目以降に「こどもたちの多様な教育的ニーズへの対応」とあるが、この部分に「不登校対応」に関する内容は包含していると考えます。

(会長)

事務局の見解に対して、ご意見、ご質問等あるか。

<意見無し>

(会長)

藤崎委員からのご意見については、計画の内容を審議する中で、細心の配慮が為され、具体的な取組が示されていると私も認識しているので、答申においては、事務局の説明のとおり包含されているとしたい。

その他、ご意見、ご質問等あるか。

(委員)

答申案の2項目目の2行目から3行目の「頂きたい」のみ漢字になっており、他はすべて平仮名になっているので、統一した方が良い。

(事務局)

平仮名で統一するよう修正する。

議 事 の 経 過

(会長)

その他、ご意見、ご質問等あるか。

(委員)

資料No.3 の計画原案の校正について、これが完成版になるのか。まだ校正する余地はあるか。例えば、「持つ」が漢字と平仮名の両方を使っている。

(事務局)

校正については、今後も事務局で続けていくので、現状でお気づきの点があれば、教えてもらいたい。

(委員)

計画書について、2点意見したい。1点目は、細施策の指標の中で、5年間の継続的な取組として、矢印で示している指標がある。これらについては、計画期間内で方向性等の変更があった場合、軌道修正が図られるものか。

2点目は、審議会の中で、市立特別支援学校の施設整備については、学校の役割と市の役割があり、担当課として特別支援学校だけの記載で良いかと意見した。小中学校の施設整備は教育財務課が担当課となっており、市立高については市の職員の配置がある中で、特別支援学校はそのような環境に無いので、施設整備に関してはサポートが必要と考える。

(事務局)

1点目については、第四次計画では時流の変化に対応できることを念頭に策定を進めてきているため、この指標の中で軌道修正を図っていくものと考えている。

2点目の特別支援学校の施設整備については、教育委員会では、学校管理課が特別支援学校と一緒に進めていくことであるため、ご心配の点については学校管理課に申し伝えたい。

(会長)

その他、ご意見、ご質問が無ければ、資料No.1 の答申案を、審議会の答申としてよろしいか。

<異議なし>

(会長)

それでは、議題(1)についての審議は終了する。

(2) その他

(会長)

次に、議題(2)、その他について、何かご意見等あるか。

(委員)

今回、審議会委員の委嘱を受けるにあたり、事前に国や県の動向、他市町

議 事 の 経 過

の事例を見てきたうえで、これまでの川越市の計画と今回の原案を比較すると、総論については、国や県の動向、更には審議会の議論を踏まえて、時代の流れを捉えた内容になっていると認識している。しかしながら、各論になると、手詰まり感が否めない。例えば、学力に関して言うと、第二次計画からずっと「学力向上プラン」について書いていて、それ以外には新しい施策や具体的な取組が見えて来ない。

働き方改革についても、例えば ICT を活用することが必要と総論で触れているのに、各論になると新しい取組が出てこない。今回の計画は第二次、第三次の計画から引き算が多い印象にある。例えば、今回のアンケート調査の学校に期待する役割において、保護者、市民の意見では、「自ら考え、判断し、表現する力」が上位となっており、本質的にはこれは学力の話では無く、文部科学省が示している課題発見能力と考えている。また、これに関する今回の計画の取組では、先生方が月 40 時間、50 時間と残業している中で、「学力向上プラン」に基づいて努力しなさいと言った風にしか書かれていない。

やはり教育委員会事務局も日々の業務に追われて非常に忙しい中で、計画策定が 5 年に一度のプラスアルファの業務になってはいけないと考えている。他市においては、教育政策室といった部署を設置し、課を横断して教育政策を検討している中で、川越市が時代遅れにならないようにしなくてはならない。各論の手詰まり感を打破するために、中長期的に教育政策を考える部署あるいは専任の担当者を設けていかないと、5 年後の次期計画策定時にまた同じことが起こりうる。今後の川越のこどもたち、先生たちのために、ぜひお考えいただきたい。

(事務局)

教育政策を強化するための新たな部署の設置検討については、教育長から指示を受けている。現状の教育委員会の組織としては、学校部門と教育全般の部門に分かれているため、本計画の進捗状況も含め、教育委員会として、教育政策を一体的に取り組み、中長期を見据えて動いていけるような組織を作り上げていく必要があると考えている。

(委員)

文部科学省や県、他市町においては、教育振興基本計画について YouTube で動画配信している。川越市においても、動画を活用して教育長の熱い思いを教員や市民に伝えることを検討していただきたい。市長が若者の意見を聞く場を設けるという話をテレビの情報番組で見たが、とても良いことだと考えるし、私たち審議会委員の年代ではわからない感覚をこどもや若者たちは持っている。総論の中では「こども基本法」について触れているが、各論の中では具体的な取組が無いので、こどもや若者の意見を活用するような部署があると、多様性の中で川越市の現状を見ることができないのではないか。

議 事 の 経 過

(事務局)

若者の意見の取り入れについては、今の時代、必須条件として捉えている。今回はアンケート調査という形を取ったが、社会状況の変化に対応するためにも、現場からこどもの声、教員の声を引き上げるような仕組み作りを進め、次期計画にも反映できるようにしていきたい。

(会長)

その他について、何かご意見等あるか。

(委員)

この審議会が始まって半年間経過しているが、AI に関しては、世の中の状況は刻一刻と変化しており、特に去年は、既にシンギュラリティが実際に来たのではないかとと言われるような1年であった。AI 等に関して感じることで、若い世代の人たちが、教育や仕事の現場でなくて、娯楽や余暇の時間の中で、YouTube 等の媒体を通じて AI が作ったものに触れる機会が多くなっている。また、教育の現場においても、昨今、コグニティブオフローディングといった言葉が使われるが、私達が本来であれば持っているべき能力を AI や機械が代替するという状態になってきている。そういった世の中の状況や教育のあり方を考えた時に、行政にも恒久的に次世代のことを考えていくような部署や仕組みが必要ではないか。すぐに実現することは難しいかもしれないが、一方で、時代の流れを常に把握している人達がいなければ、いざ動こうといった時に機能しないことを危惧している。次期計画の策定を迎える5年後には、今では想像もつかない状況になっていると思われるので、ぜひ検討していただきたい。

(事務局)

本日もテレビで見たところであるが、働き盛りの生産年齢人口が減少してきている中で、人から教わるのではなく、もう AI から教わるという素地を作っている所が大分増えてきた印象を受けている。

激しく変化する社会状況の中で、行政側もしっかりと見ていかなければならないと感じているが、新しい部署を作るというよりは、現状、市として担当部署が一つあるので、川越市全体ではその部署を中心として進めることになる。次期計画についても、こういった部署と連携をしながら5年後を見据えた形で対応していきたい。

(委員)

先ほど、教育政策の専門部署の話の中で、こどもの意見という話をしたが、そこに AI を活用するとともに、DX に関しては、公務員がわからない感覚が民間にあると思われるので、ぜひ民間の方を活用してほしい。私も毎日のように ChatGPT を利用しているが、「川越市の教育を良くするためには」と問いただけると、2~3秒で、川越の歴史を教育課程に入れるとか、教員の働き方改革に関する提案が出てくるので、正しいかどうかではなく検証に値するも

議 事 の 経 過

のと考える。多様性の観点からも必要なことであり、様々な面で柔軟に取り入れる川越市であってほしい。

(事務局)

DX に関しては、川越市全体でようやく進み始めたので、これから先は流れが早くなってくると思われる。川越市は、他市と比較してデジタル化の進捗率が低い状況にあったが、市民が市役所の窓口に来なくても用事が済ませられるという考え方を基本として進めている。総務省からの出向職員がデジタル推進担当部長として一生懸命取り組んでいるので、連携をしながらしっかりと進めていきたい。

(会長)

日本には、過去から鉄腕アトムやガンダムといったキャラクターが身近にあり、AI やロボットとの付き合い方というのは、想像しやすい国民かもしれない。これまでの議論を聞いて、AI と DX というのは、それぞれ別の話にはなるが、それらのより良い活用の仕方、付き合い方というものを今後検討していくということが重要だと感じた。

それでは、その他に意見等が無いようなので、進行を事務局に戻したい。

(事務局)

それでは、答申書案については、本日いただいたご意見を踏まえた修正を加え、この後、山崎会長から教育長へ答申書としてお渡しいただく。

4 . 答申

5 . 閉会